

新型コロナウイルスの影響による医学生への支援を求める緊急提言

2020年5月21日

学生アドボカシー・グループ

高等教育無償化プロジェクト FREE 医学生チーム

新型コロナウイルスの広がりが医学部での学生生活に大きな影響を及ぼしています。私立医学部をはじめ、医学部はもともと高学費ですが、コロナ禍により学生・家計がさらなる打撃を受けています。また感染拡大防止のためにオンライン授業が取り入れられた大学も多いですが、本来の教育・研究を完全に代替することはできません。さらに定期試験や共用試験、国家試験への影響も考えられ、具体的な方針が出されていない今、学生たちは大きな不安を抱えています。そもそも政府は、憲法や国際人権規約に基づき、誰もが無償で高等教育を受けられる制度を漸進的に実現する義務を負っています。それにも関わらず学生に高負担を課し続けてきたことが、コロナ禍によって学生の生活状況が苦しくなっている原因でもあります。

私たちは、「新型コロナ感染拡大の学生生活の影響調査」を基に全国の医学生の実態を明らかにし、学生を守るための緊急提言を行います。

1、学生・家計へ一律の経済支援と、将来的に学費を無償化していくことを求めます。

コロナ禍が長期化するなかで、アルバイトの減少、家計収入の減少により、学生生活が非常に苦しくなっています。国として緊急の支援策を講じるとともに、国公私立問わず一律の経済的支援を求めます。さらに将来的には学費を無償化し、家庭の経済状況に関わらず医学部での学びが可能になるように求めます。

2、大学の授業・実習の質の担保および、定期試験や共用試験(CBT・OSCE・Post C.C. OSCE)などにも配慮することを求めます。

オンライン授業化や、変則的な試験などに伴う学生の費用負担の補填を求めます。また解剖実習や実験、高学年の臨床実習などオンライン化できない授業については、学生から意見を十分に聞き取ったうえで明確な方針を出すことを求めます。さらに、共用試験についても各大学での対応に不公平がでないようにし、学生が十分な知識と技能を獲得してから試験に臨めるような配慮を求めます。

3、臨床実習や試験、講義の再開にあたっては、十分な感染防止対策を講じることと、それにあたる費用を国・大学が負担することを求めます。

緊急事態宣言の解除に伴い、今後通常通りの試験、講義、臨床実習などの再開が見込まれます。その際には、感染防止対策の方針を国が策定し、ソーシャルディスタンス、不織布マスクやフェイスシールドなど、感染防止対策を徹底し、学生が感染するリスクを最小限に留めた上での再開とすることを求めます。また、感染防護具の準備にあたる費用は国・大学が負担するものとし、学生の自己負担としないことを求めます。

4、国家試験や研修病院選びに関して、早急に学生へ情報提供することを求めます。

国家試験への影響を不安に思う声も多く、今後の方針を早急に示すことを求めます。研修病院選びについては、現在病院見学に行くことができない学生にも、コロナ禍の影響による長期休暇の減少で、見学の機会が失われた学生にも、十分な情報提供と配慮を求めます。

多くの医学生は将来日本の医療を担い、“より良い医師になりたい”と願っています。新型コロナウイルスの影響で様々な影響を受けている今、医学生の実態に目を向け、国全体での支援・情報提供を求めます。 以上